

がん検診の大切さ 高校生に

学芸館高でドクタービジット

医師が学校に出向いて生徒に語りかける「ドクタービジット」（朝日新聞社、日本対がん協会主催）が19

日、岡山学芸館高校（岡山市東区西大寺上1丁目）であった。放射線医学が専門の中川恵一・東京大准教授



壁新聞づくりで生徒とふれあう中川恵一・東大准教授（中央） 〓岡山市東区

（52）ががん検診の大切さなどについて講演。生徒ら約100人が耳を傾けた。

中川准教授は日本人の2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなる状況を紹介。生活習慣の改善によるがん予防や、検診による早期発見の大切さを説明し、「がんのことを学べば、がんで命を落とすことが減る」と訴えた。

講演後には医進コースの生徒20人が4班に分かれて壁新聞づくり。中川准教授もレイアウトなどを生徒と一緒に考えた。1年生の中山千明さん（16）は「早期発見ができれば、がんの9割が治ると知って驚いた」と話した。